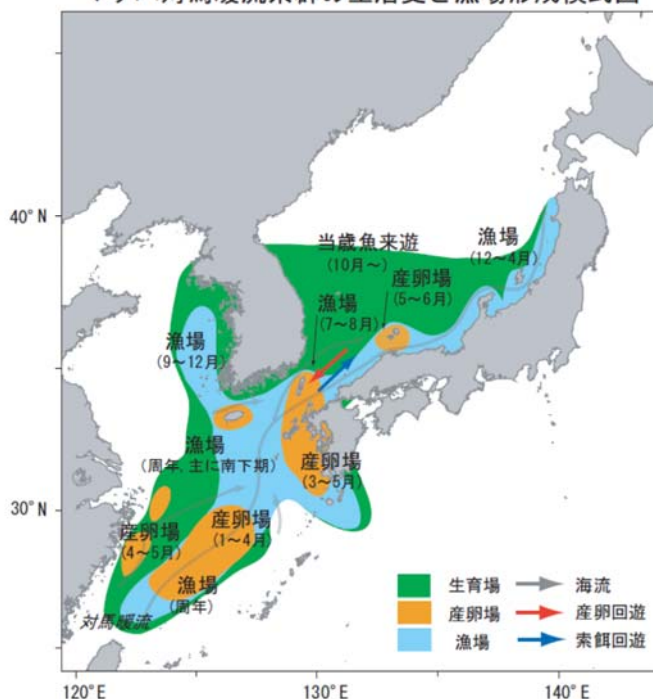




マサバ対馬暖流系群 平成29年度資源評価結果

マサバ対馬暖流系群 平成29年度資源評価結果

マサバ対馬暖流系群の生活史と漁場形成模式図



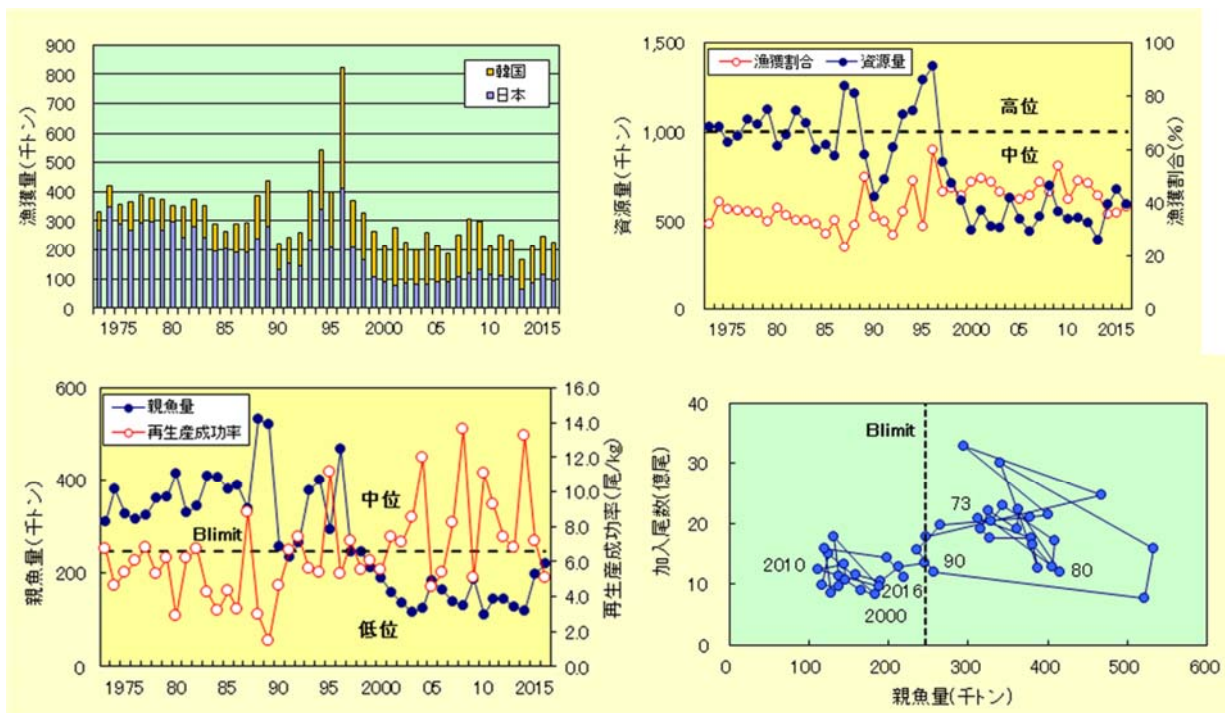
生物学的特性

- 寿命：6歳程度
- 成熟開始年齢：1歳 (60%)、2歳 (85%)、3歳 (100%)
- 産卵期・産卵場：1～6月、東シナ海南部の中国沿岸～東シナ海中部、朝鮮半島沿岸、九州・山陰沿岸
- 索餌期・索餌場：東シナ海～黄海・日本海、春～夏季に索餌のため北上回遊、秋～冬季に越冬・産卵のため南下回遊
- 食性：主に、オキアミ類、アミ類、橈脚類などの浮遊性甲殻類、カタクチイワシなど小型魚類
- 捕食者：稚幼魚は魚食性の魚類に捕食される

資源量の推定方法

- 1～12月を年単位とする1973年以降の日・韓の年齢別・年別漁獲尾数に基づき、2003年以降の大中小型まき網の年齢別資源量指標値を用いてチューニングをしたコホート解析(VPA)により、資源量を計算した。
- 中国の漁獲量は精度の問題が大きいことから考慮しなかった。

3



2016年 漁獲量:23万トン 9.5万トン(日本)+13.3万トン(韓国)
 資源量:59万トン(チューニングVPAにより算出)
 親魚量:22万トン<(Blimit=25万トン)

4

資源評価のポイント

- 資源水準

過去44年間(1973年～2016年)の資源量の上位1/3

(100万トン前後に相当)以上を高位

2016年資源量(59万トン)は非該当

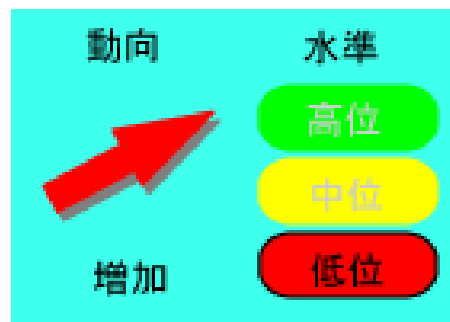
中位と低位の境界

Blimit(親魚量25万トン) > 2016年親魚量(22万トン)

- 資源動向

過去5年の資源量の推移

- 資源水準は低位、動向は増加



5

漁獲シナリオ (管理基準)	Target/ Limit	2018年漁期 ABC (千トン)	漁獲割 合 (%)	F値(現状の F値からの増 減%)	2023年の 親魚量 (千トン) (80%区間)	確率評価(%)	
						2023年に 2016年 親魚量を 維持	2023年に Blimitを 維持
親魚量の増大* (F30%SPR)	Target	194	22	0.36 (-51%)	769 (555-969)	100	100
	Limit	227	26	0.45 (-38%)	648 (451-819)	100	99
現状の漁獲圧 の維持* (Fcurrent)	Target	268	32	0.59 (-20%)	517 (308-673)	97	96
	Limit	304	37	0.73 (±0%)	409 (170-494)	79	72
親魚量の回復 (B/Blimit x Fmed)* (Frec)	Target	278	33	0.62 (-15%)	487 (248-621)	93	90
	Limit	313	38	0.78 (+6%)	369 (142-463)	70	61
		2018年漁期 算定漁獲量 (千トン)					
親魚量の維持 (Fmed)	Target	297	36	0.70 (-4%)	430 (188-538)	84	78
	Limit	332	41	0.88 (+20%)	253 (94-373)	44	35

6

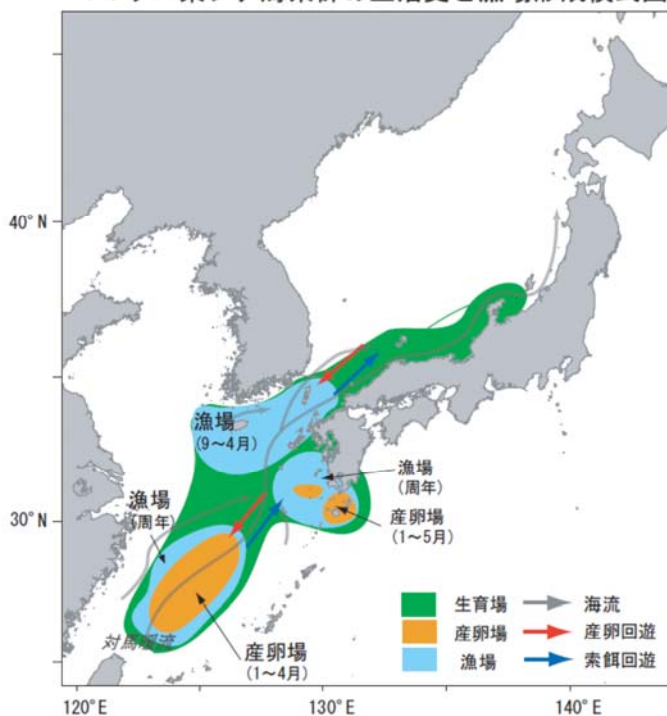


ゴマサバ東シナ海系群 平成29年度資源評価結果

7

ゴマサバ東シナ海系群 平成29年度資源評価結果

ゴマサバ東シナ海系群の生活史と漁場形成模式図



生物学的特性

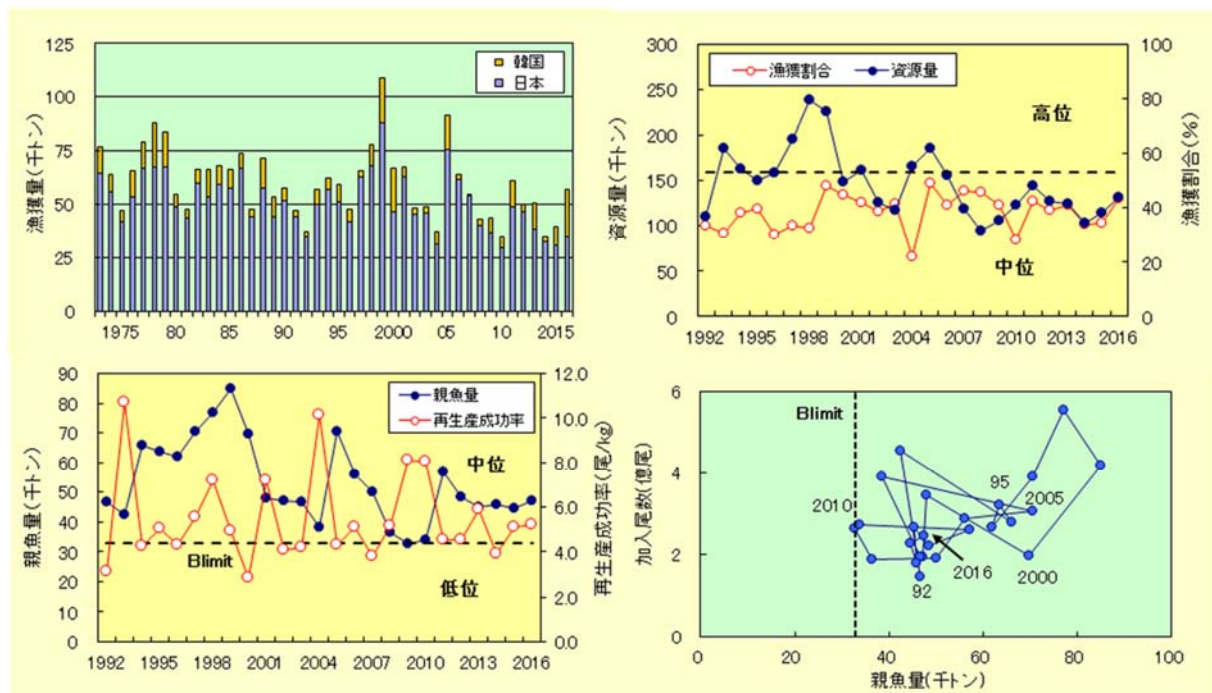
- 寿命：6歳程度
- 成熟開始年齢：1歳 (60%)、2歳 (85%)、3歳 (100%)
- 産卵期・産卵場：東シナ海中部・南部～九州南部沿岸 (1～4月)、東シナ海中部～九州西岸 (5月)
- 索餌期・索餌場：東シナ海～日本海西部、春～夏季に索餌のため北上回遊、秋～冬季に越冬・産卵のため南下回遊、マサバよりやや南方域に分布
- 食性：幼魚はイワシ類の稚仔魚や浮遊性の甲殻類など、成魚は動物プランクトンや小型魚類を捕食
- 捕食者：稚幼魚は魚食性の魚類に捕食される

8

資源量の推定方法

- 1992年以降の日・韓の年齢別・年別漁獲尾数に基づき、2003年以降の大中小型まき網の年齢別資源量指標値及び枕崎港に水揚げする中小型まき網の資源量指標値を用いてチューニングをしたコホート解析(VPA)により、資源量を計算した。なお、最近年(2016年)のFの推定にはリッジVPAの手法を導入した
- 中国の漁獲量は精度の問題が大きいことから考慮しなかった。

9



2016年 漁獲量:5.7万トン 3.5万トン(日本)+2.2万トン(韓国)
 資源量:13.1万トン チューニングVPAにより算出
 親魚量:4.7万トン \geq (Blimit=3.3万トン)

10

資源評価のポイント

- 資源水準

過去25年間(1992~2016年)の資源量の上位1/3

(16万トン前後に相当)以上を高位

2016年資源量(13.1万トン)は非該当

中位と低位の境界

Blimit(3.3万トン) ≤ 2016年親魚量(4.7万トン)

- 資源動向

過去5年の資源量の推移

- 資源水準は中位、動向は横ばい



11

漁獲シナリオ (管理基準)	Target/ Limit	2018年漁期 ABC (千トン)	漁獲 割合 (%)	F値(現状の F値からの増 減%)	2023年の 親魚量 (千トン) (80%区間)	確率評価(%)	
						2023年に 2016年 親魚量を 維持	2023年に Blimitを 維持
親魚量の増大* (F30%SPR)	Target	27	23	0.37 (-47%)	157 (90-204)	100	100
	Limit	31	27	0.46 (-34%)	111 (57-160)	97	100
親魚量の維持* (Fmed)	Target	35	32	0.55 (-22%)	75 (41-116)	80	97
	Limit	41	38	0.69 (-2%)	42 (22-68)	30	64
		2018年漁期 算定漁獲量 (千トン)					
現状の漁獲圧 の維持 (Fcurrent)	Target	36	32	0.56 (-20%)	72 (38-115)	76	96
	Limit	41	38	0.70 (±0%)	39 (20-64)	24	55

12